

会 議 録

会議の名称	第32回白岡市地域公共交通会議及び 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会会議
開催日	令和2年8月19日(水)
開催時間	午後2時00分～午後3時20分
開催場所	白岡市役所庁舎 4階 特別大会議室
会長の氏名	野口仁史
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	田沼健一、明野真久、細井将司、鶴岡 洋、高原 昭、佐々木 操、 矢島静江、浅野悦子、廣田勝明、小川ゆかり、小川幸一、 伊藤太佳博、關根光敏、尾崎晴男、牧 紀水子、野口仁史、 酒巻光範、中村輝久 18人
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	前島雅史、新井政文 2人
説明員の職・氏名	市民生活部 部長 篠塚 淳 地域振興課 課長 岡安久美子 地域振興課 公共交通推進室 室長 小林聡一 地域振興課 公共交通推進室 主査 中野立士
事務局職員の職・氏名	市民生活部 部長 篠塚 淳 地域振興課 課長 岡安久美子 地域振興課 公共交通推進室 室長 小林聡一 地域振興課 公共交通推進室 主査 中野立士 地域振興課 市民協働担当 主任 齋藤裕功
その他会議出席者の職・氏名	白岡市長 小島 卓 傍聴者 4名
会議次第	1 開会 2 市長挨拶 3 会議事項 (1) コロナ禍での白岡市のりあい交通の運行について (2) 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会における補正予算について

	<p>(3) のりあい交通における課題事項の方向性について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
配布資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 新型コロナウイルス流行期間における乗車人数の推移</p> <p>資料2 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会における補正予算について</p> <p>資料3 のりあい交通における課題事項の方向性</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会</p> <p>篠塚市民生活部長の進行により会議が開会した。</p>
小島市長	<p>2 市長挨拶</p> <p>小島市長から挨拶が行われた。 (市長は所用のため退席した。)</p>
野口会長	<p>3 会議事項</p> <p>規約に基づき、野口会長の進行で会議事項が図られた。</p> <p>(1) コロナ禍での白岡市のりあい交通の運行について</p> <p>(2) 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会における補正予算について</p> <p>(1)及び(2)について関連があるため、同時説明とする。事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>事務局から資料1及び資料2に基づき、説明が行われた。 説明の中で第31回会議の質疑等に対する説明を行った。</p>
野口会長	<p>本件に対する質疑を求める。</p>

A委員	<p>委託事業者の現場としてのお話させていただく。</p> <p>コロナ禍において、「出庫前の検温」「お客様降車後の換気」「定期的なアルコール清掃」を基本として実施している。</p> <p>お客様に対しても、マスクの着用のお願いや運転手との会話をご遠慮いただく案内を車内でしている。</p> <p>また、お客様の中には、コロナを心配して「のりあい」になるのならキャンセルするという方もいる状況である。</p> <p>緊急事態宣言から、利用者が大分減っており、これは「のりあい交通」だけでなく通常のバスやタクシーでも言えることであるが、緊急事態宣言終結後から、通院等で少し増えてきている状況である。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。</p> <p>(質疑はなかったため、会議事項(1)及び(2)の承認を求めた結果、原案のとおり承認された。)</p>
野口会長	<p>(3) のりあい交通における課題事項の方向性について</p> <p>事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>事務局から資料3に基づき、説明が行われた。</p>
野口会長	<p>本件に対する質疑を求める。</p>
B委員	<p>5ページのセダン型車両について、継続協議となっているが、バス事業者では、車椅子に対応できる車両となっている。</p> <p>「のりあい交通」については、車椅子に対して別の手段を持っているか。</p>
事務局	<p>車椅子については現在検討しているところである。</p> <p>運行開始当初の検討では、福祉車両等の選択肢もあることからセダン型での決定となった。</p> <p>現状、アンケート結果や利用者からの車椅子の要望が出ていな</p>

B委員	<p>い状況だが、潜在的な需要も見極め、今後検討していきたい。</p> <p>それでは、福祉部門で何か対応しているのか。</p>
事務局	<p>白岡市独自の事業ではないが、福祉サービスの一環として準備がある。</p>
野口会長	<p>他にないか。</p>
C委員	<p>10ページの方向性について、「予約の自由度を向上させていく」とあるが、具体的に何かあれば教えていただきたい。</p> <p>また、利用者アンケートのインターネット予約の60%が無回答の状況では、あまりインターネットを利用されていないのではと考えるが、利用促進の周知について伺いたい。</p>
事務局	<p>まず、自由度向上の方策としては、例えば、予約ができる期間を延長させるなど考えられる。</p> <p>また、周知については、元々は高齢者を対象としていたことからインターネットの利用率が低い状況である。</p> <p>今もパンフレット等で周知を行っているが、それとは別に、チラシ等で内容を簡略化したものを全戸配布するなど検討している。</p>
A委員	<p>運行当初は電話対応だけだったが、電話が集中し、予約が取りづらい状況だった。</p> <p>そのため、インターネットを導入したことで緩和を図った。</p> <p>年齢の high かたではインターネット予約が難しい面もあるが、うまく利用されているかたでは、同居又は別居家族に予約をお願いするケースもある。</p> <p>家族に予約してもらうなども可能な旨周知すれば、電話の集中も緩和できるのではないか。</p>
野口会長	<p>他には。</p>

D委員	<p>高齢で身内が近くにいない人に対して、予約方法等の情報を地域にフィードバックし、電話混雑の緩和を図りたいと考えている。</p>
野口会長	<p>他には。</p>
E委員	<p>7ページの午前の増車をし、輸送力の強化をするとのことだが、いつからの増車を検討しているか。</p>
事務局	<p>来年度が契約更新の時期となるため、来年度4月からの増車を検討したい。ただし、財政的な面もあるため、予算の承認を得る必要もある。</p> <p>また、契約更新とは別に、コロナ対策として、来月9月から来年3月までは午前中に1台増車を行う。</p>
B委員	<p>前回会議のコロナ禍における増車については、承認しないと回答したが、路線バス事業者も非常に厳しい状況である。</p> <p>「のりあい交通」が充実することで、更に路線バスの需要が減る可能性がある。</p> <p>事業者としても、利用者の少ない時間帯等の見直しなども検討するところである。</p> <p>「のりあい交通」の充実が、既存事業者を圧迫することもご理解いただきたい。</p>
事務局	<p>厳しい状況であることは、市としても理解している。</p> <p>そのことを踏まえ、地域公共交通の拡充を図りたい。</p> <p>拡充の結果として、市民が外出されれば、帰りはバスやタクシーを利用するなど考えられ、事業者との共存を含めての提案である。</p>
F委員	<p>他の地域でも自治体がのりあい交通やデマンドバスなどに力を入れ、一般事業者を圧迫する例がある。</p> <p>今回は、コロナにおける緊急避難的な意味合いでの増車とのこ</p>

事務局	<p>とだが、今後、それを恒常的に増車させることについては、もう少し検討した方がよろしいのではないか。</p> <p>コロナの影響で社会情勢が大きく変わっているが、予算とサービスレベルのバランスを考え、安易に増車するのではなく、車の動きや予約不成立の状況を改めて検証すべきではないか。</p> <p>また、予約が取れない市民がどうしているのかも調べた方がいいのではないか。</p> <p>このような調査処理については、AI が得意分野であるので、それも踏まえ分析研究してはいかがか。</p> <p>予約システムについては、AI を活用しており、運行の分析などを更に進めていきたいと考えている。</p> <p>また、今後の増車についても、提案頂いた内容を検証したうえでの提案となるため、ご理解いただきたい。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。</p> <p>(質疑はなかったため、会議事項(3)の承認を求めた結果、原案のとおり承認された。)</p>
E 委員	<p>4 その他</p> <p>今のバスの状況について、説明させていただきたい。</p> <p>新型コロナの影響で国土交通省が調査を行ったが、バスについては5月では70%以上の減少が半数以上を占め、7月に入っても通常程度までの回復には至らない。国で推奨している「新しい生活様式」を踏まえるとテレワーク等で今後も外出が減り、バス事業者は今後も厳しい状況であることを理解していただきたい。</p>
B 委員	<p>市長の挨拶の中で、一般交通事業者への支援の話がありましたが、詳しく教えていただきたい。</p>
事務局	<p>交通事業者支援事業については、地方創生臨時交付金を活用した支援事業となり、7月の臨時議会で承認された。</p>

佐々木会長	<p>交通事業者支援事業は企画政策課が主管となるが、概要は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内を運行する交通事業者に対して、輸送サービスの事業継続の支援するものであり、交通事業者に対しての支援金である。</p> <p>5 閉会</p> <p>佐々木副会長から挨拶が行われた。</p>
<p>議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 年 月 日</p>	